

命を守るキーワードは『警戒レベル』と『早めの行動』

5月下旬から
(予定)

防災気象情報が変わります



▶何がかわるのか

大雨など災害の危険度が高まるときに気象庁が発表する『警報』などの情報と伝え方が新しくなります。「情報と警戒レベルとの関係が分かりにくい」などの声を反映し、より直感的に危険度が伝わり、命を守るための行動をとるタイミングが分かる仕組みに変わります。



▲気象庁
特設ページ

▶具体的には

今後、大雨、河川氾濫、土砂災害などの情報は、名称に5段階の警戒レベルの数字を付けて発表されます。

(例)

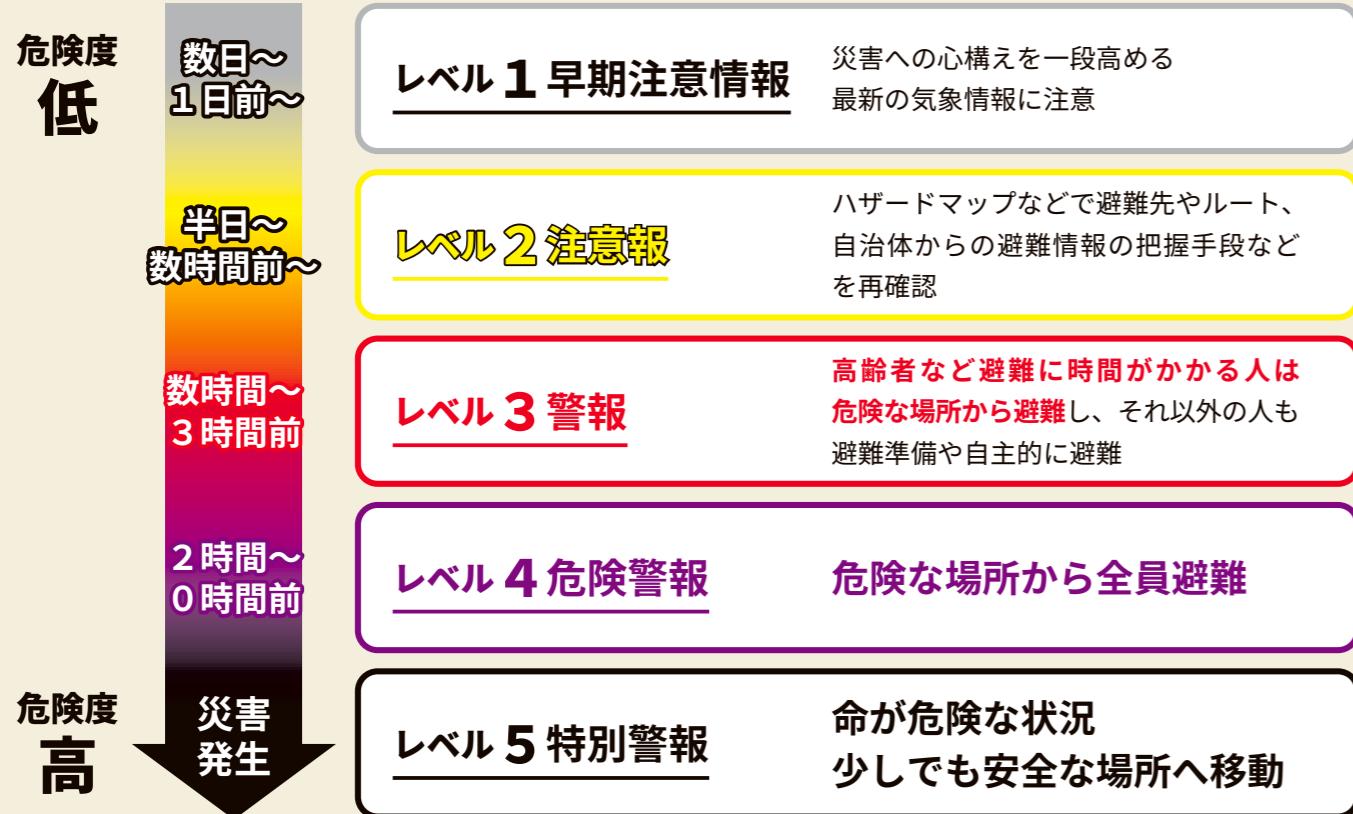
大雨警報 → **レベル3大雨警報**
土砂災害警戒情報 → **レベル4土砂災害危険警報**



梅雨や台風シーズンに向けて 防災気象情報を見る5つのポイント

ポイント1 | 情報名称の『レベル』と『色』に注目

下図は、災害発生までに出される『防災気象情報』と行動の例を時間の流れのイメージに沿って表したものです。災害の危険度が高まると、レベル1～5の情報が順次発表されます。数字が大きくなるにつれて危険度は高まり、皆さんがとるべき行動も変わります。



ポイント2 | 避難するタイミングは『レベル3』と『レベル4』

『レベル3』は高齢者など避難に時間がかかる人は避難してください。
『レベル4』は全員が危険な場所から避難するタイミングです。
『レベル5』はすでに命の危険が迫っている状態です。



最新の情報を確認し、早めの行動を心掛けてください。

ポイント3 | この情報が出たら、身の安全を確保

気象防災速報 (極端な現象を速報的に伝える情報)

災害発生の危険度が高まっている状況で、警戒感を一段高めて速やかな防災対応や行動の判断を後押しする情報です。この情報が発表されたら、防災気象情報や、**本市が発令する避難情報**に留意し、身の安全を確保してください。

(例)

- ・気象防災速報(線状降水帯直前予測)
※発生の2～3時間前を目標に発表
- ・気象防災速報(線状降水帯発生)
- ・気象防災速報(記録的短時間大雨)

ポイント4 | この情報を確認し、早めに備えると安心

気象解説情報 (現在や今後の見込みを伝える情報)

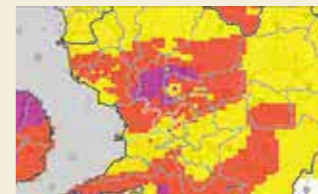
台風の進路や、大雨に関する数日先の見通しなど、**現在の気象状況と今後の見込み**について伝える情報です。皆さんの災害への備え、今後の行動の検討や判断を後押しするものです。

(例)

- ・気象解説情報(台風〇号)
- ・気象解説情報(線状降水帯半日予測)

ポイント5 | 今どのくらい危険か、気象庁の『キキクル』をチェック

『キキクル』は、大雨などによる災害の危険度について、色分けされた地図で最新の状況を確認できる手段です。パソコンやスマートフォンから見るができます。



『キキクル』の画面



▲気象庁ホームページ
『キキクル(危険度分布)』

情報と伝え方が変わっても、災害への心構えと備えの必要性は変わりません。
命を守るために、防災対策の見直しや避難場所の確認などを行ないましょう。

市からの情報も複数の手段で確認を

災害発生のおそれや災害が発生したときは、市から避難所開設状況や警戒レベルについての情報を発信します。必ず複数の手段で確認できるようにしましょう。



◀市ホームページ
『防災サイト』
(緊急情報ページ)



◀市公式LINE
※友だち追加時に
受信設定をお願いします



◀市防災情報
お知らせメール
(登録案内サイト)

●防災無線聞き直しダイヤル

☎096-248-2288

※聞き直しには通話料が発生します。放送直後はつながりにくいことがあります

●問い合わせ先 安全安心課 ☎096-248-1555